

博士論文概要・令和元年度3月/令和2年度9月修士論文概要

兼安, 章子
福岡教育大学 : 講師

岩永, 裕次
九州大学大学院人間環境学府

宮崎, 麻世
九州大学大学院人間環境学府

呉, 家瑤
九州大学大学院人間環境学府

<https://hdl.handle.net/2324/5068303>

出版情報 : 教育経営学研究紀要. 22, pp.59-78, 2021-03-26. The Laboratory of Educational Administration, Educational Law Graduate School of Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

中国の教員養成における「通識教育」に関する批判的検討

呉 家瑤

(令和2年9月修了)

【章構成】

- 序章 本研究の目的と方法
 - 第1節 研究の背景と目的
 - 第2節 先行研究
 - 第3節 研究方法
 - 第4節 本論の構成
- 第一章 現代中国における教員養成の実態
 - 第1節 1990年代以降の教員養成の変遷及び動向
 - 第2節 「教師像」の内実
 - 第3節 教員養成カリキュラム改革
- 第二章 教員の質的保障としての「通識教育」
 - 第1節 教員養成における「通識教育」の位置付け
 - 第2節 教員養成における「通識教育」の歩み
 - 第3節 教員養成における「通識教育」の特徴から派生した課題
- 第三章 教員養成における「通識教育」の分析と考察
 - 第1節 A師範大学教員養成カリキュラムへの考察
 - 第2節 カリキュラム設置に関する行政関係者へのインタビュー調査
 - 第3節 調査結果の分析と考察
- 終章 本研究の成果及び今後の課題
 - 第1節 本研究の結論
 - 第2節 今後の研究課題

【概要】

序章 本研究の目的と方法

長らく専門教育に偏重した中国の高等教育は、市場経済の発展に伴い広い視野を持つ人材への要請が強まり、1995年から「通識教育 (General Education)」を強化する動きが現れた。特に、「専門職」と見なされてきた教師という国家の人材育成を担う職業に対し、養成段階において専門教科の知識のみならず、幅広い分野にわたる視野や実践課題の

解決に役立つ能力を育むよう、教員養成カリキュラムに通識教育を取り入れることとなった。しかし、通識教育をめぐる様々な変革が行われたものの、教員の素質向上に直結するようなレベルには至らず、ただ形式的なものに過ぎないといった通識教育の「形式主義 (形骸化)」を批判する議論が出された (賈2005)。

中国においては、アメリカの一般教育モデルを参考に、北京大学を始め、多くの大学がカリキュラム改革を行い、自然科学、社会科学、哲学と心理、歴史、言語学、芸術などの分野を「通識選択科目」として開設し、通識教育の推進を促した。李 (1999) は、通識教育を、高等教育の一部分であり、すべての大学生に受けさせるべき非専門的 (non-professional) かつ非功利的 (non-utilitarian) な教育のことであると定義した。すなわち、通識教育は専門教育 (Special Education) の対概念であり、組織の利益のためではなく、あくまでも個人の成長を促すものなのだと捉える。

一方、専門教育への偏重からの離脱並びに人間の総合的な涵養を目的として教職課程に導入された通識教育の現状には多くの課題が浮上してきた。袁 (2013) は東北師範大学の在学学生を調査対象に、「通識教育」に対する認識調査やカリキュラム設置の研究を行い、教員養成における「通識教育」が「形骸化」されているという現状を指摘したが、なぜこのような状況が生じたかの要因については突き止めていない。また、先行研究のなかでも、「教師」という「高度な専門知識が求められるが、専門職ではない」職業としての観点を入れた龔 (2020) の研究は、現在中国の教員養成においては通識教育が必要であるとし、教員養成における通識教育を推進するため、大学を主体とするカリキュラム改革を要請した。しかし、教育政策の方向性

を主導する中央政府への要請や、政府と大学との関連性については言及していなかった。

そもそも、教員養成において「専門教育分野の狭さを補い、幅広い分野の教養と実践力の伝達」という通識教育の本来の理念が、なぜ実践的な効果につながらず、「形骸化」しているとの批判が生じているのか。その原因は、「思想政治教育」が中心となっていた通識教育が、学生個人のためではなく、むしろ国家の人材育成を担う教師に「過度」な愛国主義や愛党主義を植えつけようと、「通識教育」に埋め込ませた政治的イデオロギーの注入措置として扱っているからではないだろうか。

以上の先行研究を踏まえ、本研究は以下の2点をリサーチクエスションとして設定した。①教員養成における通識教育が「形骸化」された要因は何か、②教員養成における通識教育と専門教育の関連性及び課題は何か、の2点である。また、本研究は、中国の高等教育における通識教育に関する教育政策の形成経緯と教育政策を見直し、教員養成における通識教育の「形骸化」という課題が生じる要因の検討を目的とし、政府の教育政策と大学のカリキュラム双方の観点から明らかにしようとする試みである。

研究方法について、本研究は文献分析と事例分析を用いた。文献分析においては、まず、現代中国における教員養成の現状や動向に関する文献を検討し、今日的な「教員像」及びそれに基づいた教職カリキュラムの実態を明らかにした。次に、教育部が出している政策・法令・文書を用いて、教員養成における通識教育の課題やこれまで指摘された課題が生じた要因を探った。事例分析においては、教員養成カリキュラムにおける通識教育課程に関する諸課題について半構造化インタビュー調査を行った。インタビューの分析枠組みとして、①教員養成カリキュラムの設置過程、②通識教育と専門教育の関係性、という2つの観点のもとで考察を行った。

第一章 現代中国における教員養成の実態

第一章では、現代中国における教員養成の

実態を解明するため、教員養成の制度変容及び動向、「教師像」の内実、教員養成の学士カリキュラムの実施状況の3つの側面を考察した。

今日中国における教員養成の目標及び課題を析出するため、国家教育政策（マクロな面）と師範大学の教員養成目標（ミクロな面）という2つの観点から、「教師像」に関する内実を明らかにし、教員が求められてきた素質及び「教師」という職業の位置づけを考察した。その結果、国家の教育政策には、①教育方法について、単一的知識を一方向的に学生に教え込むのではなく、学生一人一人の個性を見出し、自主的に学習させるような柔軟性の高い教授方式が求められる、②習得内容について、専攻分野の教科知識はもちろん、異なる分野の知識も持つ「双師型」教員が望まれる、③理想像について、高い道德素養、正しい価値観を持ち、急変する時代の需要に相応しい国家の発展のための人材育成を担う教員、の3つの方向性が見られた。さらに、中国においては「教える専門家としての教師」という認識は広く浸透していても、その実態は専門家から程遠いところに位置している。医師や弁護士と比べて、教師の職業道德規範において、「国家と人民を愛し、中国共産党と社会主義を擁護する」のように、政治指向性を含む用語が明確に掲載されている。故に、中国においての「教師」は「国家の奉仕者」という立場に置かれていると考えられる。

それに対し、64校の師範大学の教員養成目標を対象に、「求める将来の教師像」の記述を収集し、キーワードを抽出し分析した結果、師範大学における教員養成の目的には国や地方経済への還元が期待されていると同時に、それを達成するために、知識素養、道德意識、マネジメント力等多種多様な「教養」が求められる傾向が見て取れた。

中国において、市場経済体制への転換及び高等教育大衆化への突入により、教員の量的拡大が進む一方、教員の質が下がったという社会課題が生じていた。専門教科教育を中心とした教員養成カリキュラムが続いた結果、

学生が単一「教科」に関する知識の習得に専念し、「教師」という職業としての全面的な素質が欠如していたというような批判が高まった。中央政府として、学生に人文社会的素養、科学的素養、道徳的品格などの能力を身につけさせ、高等教育でこれらの能力の育成を担うものとして「文化素質教育」と名付け、通識教育の「選択科目」として学士課程に加入させるという動きが現れた。

第二章 教員の質的保障としての「通識教育」

第二章では、教科専門教育との葛藤の中で注目された「通識教育」の教員養成課程における位置付けを整理し、教員養成における「通識教育」の形成経緯や関連政策に遡り、第一章の教員養成カリキュラムの実施状況と合わせて、課題及び課題を生じさせた要因についての考察を行った。

まず、中国の高等教育における通識教育の在り方の全体像に関する研究を検討してきた廖（2015）の先行研究に基づき、通識教育のモデルを、「書院型」、「全校共通履修型」、「実験クラス型」、「コア・カリキュラム型」の4種類に再分類した。2020年時点で、高等教育段階では、教員養成系に分類されている大学が126校であり、そのうち、122校が「全校共通履修型」の方式で通識教育を実施している。

次に、教員養成における通識教育の形成経緯と関連政策の再整理を行った。通識教育が教員養成における形成経緯と教育政策の変遷に基づき、その特徴を、①教員養成課程における通識教育課程には、強い政治性が含まれている、②政府が掲げている「文化素質教育」が大学では「通識教育」として展開されている、③通識教育には「理論志向」が強いため、教員養成において、専門教育との関連性が弱い、の3点にまとめた。

最後に、これらの特徴から派生した課題を、①「思想政治教育」を中心とした「通識教育」の性質に対する懸念、②教員養成における通識教育の「形骸化」、③通識教育と専門教育の葛藤、の3点に整理した。今日においても、

中国の通識教育観には、「完全な人の育成」という趣旨の自由主義教育の意志が表されており、幅広い分野の知識や技能と多様な視野を含む「人格形成」の側面が強い。個人の人格形成のためとはいえ、個人と社会の関係が切り離せない現代社会においては、「人格形成」は必ず社会と結びついており、通識教育を通して「人格形成」を達成する過程において社会の利益に貢献している（葉 1995）。しかし、中国の教員養成の場合、カリキュラムの設置状況から見れば、「社会」という概念が「国家」に取って代わられているように受け取れる。つまり、教員養成において、「通識教育」という「人格形成」の名の下で、毛沢東思想原理や習近平思想理論など「共産主義的イデオロギー」を中心とした思想政治教育を注入し、学生に多様な視野あるいは価値観に接触させるのではなく、逆に「共産主義」という狭い枠に閉じ込め、子どもの価値観形成に影響を与える「教師」を国家の「道具」にさせようとするのではないだろうかと考えられる。

第三章 教員養成における「通識教育」の分析と考察

第三章では、第二章で析出した3点の課題を、さらに実践上の観点から検証するため、現在の中国の師範大学における通識教育の現状及び代表となるA師範大学の教員養成カリキュラムを分析し、教育学部でカリキュラム管理の業務に携わる行政責任者のW氏を対象に半構造化インタビュー調査を行った。

A師範大学を選定する理由として、①ハード面（教育設備・財政・所在地）で優れており、比較的余裕があるため、積極的にカリキュラム革新を行う条件が揃っている、②ソフト面（管理職と教員の力量・学術環境・研修・待遇）でも、数多くの「コア・カリキュラム」科目を出しているなどの実績をあげている、以上の2点から先進的なA師範大学の通識教育課程にさえ存在する課題は、代表性と普遍性を持つと考えられる。

設問項目については、大別して「教員養成における通識教育に対する認識及び目的」、

「教員養成における通識教育の設置及び実施プロセス」、「教員養成における通識教育課程に対する評価」、「教員養成における通識教育についての課題及び対策」、の4つを設定した。

結果として、3つのことを明らかにした。1つ目は、教員養成における通識教育の中心は思想政治教育となっており、今後更に拡大していく傾向がある。2つ目は、教員養成における通識教育課程の設置に、実質的な権利を持つのが政府である。3つ目は、地域に根付いた大学の役割として、地域の経済発展や教育水準の向上に貢献するため、教員養成に対し「実践的な能力」が求められ、カリキュラム改革の必要がある。

以上の結果を踏まえ、本研究の知見として、教員養成における通識教育の実施にあたって、政府の関与（思想政治教育の強化）が強いことと、通識教育を含めた教員養成カリキュラム改革（論理志向から実践志向へ）の必要性が明らかになった。

終章 本研究の成果及び今後の課題

本研究は、政府の教育政策と大学のカリキュラム双方の観点から、中国の教員養成における通識教育が進まないという課題の要因を検討した。

加えて、「教師」の社会的身分という視点から教員養成の実態及び「教師像」の内実に関する考察を行った。政府の観点として、「専門職としての教師」を期待しているが、現実には中国の教員が「国家の奉仕者」という位置づけにされていることを明らかにした。また、大学の観点として、地域経済へ還元するための人材育成が期待され、教員養成の目的においては「実践的専門家」の側面が強調された。こういった葛藤をめぐって、教員養成のカリキュラム改革が進んでいる状況の中、「通識教育」をめぐる議論が盛んであり、改めて中国の教員養成における通識教育の形成経緯及び教育政策の変遷に関する考察を通じて、政府の通識教育課程設置への関与が強いこと、通識教育の概念の曖昧さ、理論志向の強さという3つの特徴を解明した。さら

に、実践上の観点を加え、「総合的素質を持つ応用型」教員を育成するという総合的な能力を重視する理念に対し、教員養成においては、現在の思想政治教育を中心とした「理論型」通識教育が専門教育の狭さを補うことができず、結局「形骸化」された「国家のための教育」になりつつあるという考察結果が得られた。

教員養成において、社会的価値と学問の「統合」を実現するには、通識教育という「カギ」がどのように働けば良いのか考えざるをえない課題である。今後、教員養成における通識教育の課題解決や在り方を検討する上で、多面的な視点を取り入れることが必要であると考えられる。本研究は「通識教育」の本質とは何か、中央政府や師範大学が教師にとっての教養をどのように捉えているのかを検討した。ただし、単一ケースの事例検証という研究上の限界があったことから、今後はさらにケースを増やし、検証していく必要がある。

【主要参考文献】

- ・ 龔彦忠(2020)「地方師範大学における通識教育課程の課題及び対策」『教育教学フォーラム』第6期、317-318頁。
- ・ 賈永堂(2005)「中国の通識教育はなぜ行き詰まったのか」『現代大学教育』第2期、34-38頁。
- ・ 廖婧(2015)「中国の大学における通識教育モデルの再分類」『通識教育研究』第1期、38-39頁。
- ・ 李曼麗(1999)「通識教育の概念および内実に関する検討」『清華大学教育研究』第1巻、96-101頁。
- ・ 龐海芍・鄒秀紅(2016)「中国の大学における通識教育：振り返りと展望」『高等教育マネジメント』第1期、12-19頁。
- ・ 袁芳(2013)「師範大学における通識教育課程設置に関する研究-東北師範大学を例として-」東北師範大学学位論文、13-20頁。
- ・ 葉立群(1995)『高等教育学』福建教育出版社、114頁。